

第50回

ごはん・お米とわたし

作文・図画コンクール入賞作品集



図画1部
山形県知事賞
「カレーを食べてるわたし」

大江町立左沢小学校2年
いがらし ゆきの
五十嵐 雪乃さん



図画3部
山形県知事賞
「休憩するおばあちゃん」

山形市立第二中学校1年
まつだりな
松田 莉奈さん



図画2部
山形県知事賞
「未来で輝く玉野のお米」

尾花沢市立玉野小学校5年
わきもと かなな
脇本 柑那さん



令和8年2月

山形県農業協同組合中央会・山形県農協農政対策本部



◆ごあいさつ

山形県農業協同組合中央会代表理事会長 折原敬一 1

◆第50回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール入賞一覧 2

◆図画部門

図画1部／全国優秀賞・山形県知事賞
山形県農業協同組合中央会会長賞 3

図画2部／全国優秀賞・山形県知事賞
山形県農業協同組合中央会会長賞 4

図画3部／全国優秀賞・山形県知事賞
山形県農業協同組合中央会会長賞 5

◆作文部門

作文1部／全国優秀賞・山形県知事賞 6
山形県農業協同組合中央会会長賞 7

作文2部／山形県知事賞 8
山形県農業協同組合中央会会長賞 10

作文3部／全国優秀賞・山形県知事賞 12
山形県農業協同組合中央会会長賞 14

◆審査講評

作文部門審査講評 山形市立第七小学校校長 小沼裕佳理 16

図画部門審査講評 東根市立東根中部小学校校長 今 将史 17

◆第38回～第50回 入賞一覧 18

◆審査経過の概要 20

◆募集要領 21



ごあいさつ

山形県農業協同組合中央会

代表理事会長 折原 敬一

第五十回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクールに応募いただいた児童・生徒の皆さん、とても素晴らしい作品をありがとうございます。心からお礼申し上げます。

また、入賞された皆さん、誠にありがとうございます。心からお祝い申し上げます。

私たちJAGグループは、次代を担う小・中学生の皆さんに、古くから日本の食卓と国土を育んできた稲作農業、「ごはん食と健康の結びつき」を見直してもらうため、昭和五二年度からこのコンクールを実施しており、今年度で記念すべき五十回目を迎えます。

今回は、県内の小・中学校から作文二・三篇、図画九・七・四点もの力作を応募いただき、全国コンクールに推薦するとともに、県コンクールにおいては、山形県知事賞、山形県農業協同組合中央会会長賞、優秀賞、学校奨励賞を授けました。

全国コンクールにおいては、作文部門で二名、図画部門で三名の方が優秀賞を受賞する成績を収めました。これは入賞された皆さんのご努力はもちろんのこと、ご指導いただきました学校の先生方をはじめ、ご家族の皆様、審査委員の先生方、そして山形県ならびに各JAGのご支援・ご理解の賜物と心から感謝申し上げます。

今回応募いただいた作品は、田植えや収穫作業、「ごはんをおいしそうに頬張る様子」などを臨場感たっぷりに表現したものが、「ごはんを通じた家族とのつながりや「ごはんへの思いを豊かに表現したものなど、心に響く作品ばかりでした。

また、深刻な米不足により大きな社会問題となった「令和の米騒動」は、社会的に大きな関心を集めました。日本人にとって米がいかに大切な農産物であるかに改めて気づかされた出来事でした。

どうか皆さん、毎日ごはんを食べることが出来る幸せを忘れないでください。

現在、日本は、食料の多くを外国から輸入しております。皆さんは、わたしたちが毎日食べている食べ物、どこで作られたものなのか知っていますか。食べ物全体のうち、どのくらい日本国内でつくっているかを示す食料自給率は三八％で、先進国の中でも最低の水準にあります。世界的には、人口の増加により食料が足りなくなることが心配されており、それぞれの国が食料自給率を向上させることが重要になります。

わたしたちJAGグループは、地元産をはじめとした国産農畜産物の消費拡大や皆さんの安全な食生活の確保に向けて、日本人の主食である「ごはん」を中心とした日本型食生活の推進、学校給食における安全・安心な農畜産物の提供、「食」と「農」の大切さを伝える食農教育の推進、国民が必要として消費する食料は、できるだけ国内で生産する「国産国産」の国民的理解促進に向けた取り組みに一層努力してまいります。「食と農を基軸とした地域に根ざした協同組合」として引き続き様々な取り組みを進めてまいりますので、これからも「理解・ご協力」をお願いいたします。

さて、本県産「つや姫」は、平成二三年のデビュー以来、多くの方々からご好評をいただき、トップブランドとして皆さんにとっても馴染みのお米となりました。また、平成三十年にデビューした「雪若丸」も、「つや姫」に負けず劣らずご好評をいただいております。本県では、このほかに、「はえぬぎ」などのおいしいお米をたくさんつくっています。令和九年にデビューを予定している新品種「ゆきまんでん」も、楽しみに待っていただけだと思います。これからも安全・安心でおいしいお米を皆さんにお届けしてまいりますので、引き続き応援をよろしくお願いいたします。

最後に、当コンクールがますます発展していきますよう皆様からのご協力をお願い申し上げます。ごあいさつとさせていただきます。

第50回「ごはん・お米とわたし」

作文・図画コンクール入賞一覧

(敬称略)

全国審査における入賞者

○全国優秀賞

(作文1部)	斎藤 楓	高島町立糠野目小学校	3年	(図画1部)	五十嵐雪乃	大江町立左沢小学校	2年
(作文3部)	梅津 琉生	米沢市立第一中学校	2年	(図画2部)	脇本 柑那	尾花沢市立玉野小学校	5年
				(図画3部)	松田 莉奈	山形市立第二中学校	1年

山形県審査における入賞者

作文部門

●1部 (小1～3年)

山形県知事賞	斎藤 楓	高島町立糠野目小学校	3年
山形県農協中央会会長賞	斎藤 陸輝	鶴岡市立京田小学校	2年
優 秀 賞	大森 龍樹	村山市立楯岡小学校	1年
	海和 結衣	山形市立出羽小学校	1年
	中嶋 舞帆	最上町立大堀小学校	2年
	井上 湊翔	南陽市立沖郷小学校	3年
	大泉 春仁	川西町立吉島小学校	3年

●2部 (小4～6年)

山形県知事賞	渡部ひかり	鶴岡市立藤島小学校	6年
山形県農協中央会会長賞	杉澤 美月	米沢市立愛宕小学校	6年
優 秀 賞	佐藤 衣鞠	三川町立東郷小学校	5年
	五十嵐珠菜	鶴岡市立大泉小学校	6年
	清野 陸翔	山形市立出羽小学校	6年
	羽隅 晴人	山形大学附属小学校	6年
	結城 輝真	最上町立大堀小学校	6年

●3部 (中1～3年)

山形県知事賞	梅津 琉生	米沢市立第一中学校	2年
山形県農協中央会会長賞	房間 円花	米沢市立第四中学校	1年
優 秀 賞	上野 孝太	米沢市立第一中学校	1年
	土屋龍多郎	米沢市立第四中学校	2年
	西方雲羽真	長井市立長井北中学校	2年
	大友 紅葉	天童市立第一中学校	3年
	菅原 湊	天童市立第一中学校	3年

●学校奨励賞

山形市立出羽小学校
米沢市立第四中学校

図画部門

●1部 (小1～3年)

山形県知事賞	五十嵐雪乃	大江町立左沢小学校	2年
山形県農協中央会会長賞	富樫 美咲	尾花沢市立尾花沢小学校	3年
優 秀 賞	阿部 紡	尾花沢市立尾花沢小学校	1年
	三浦 敬真	尾花沢市立玉野小学校	1年
	佐久間奏太	米沢市立六郷小学校	2年
	高橋 瑞禾	尾花沢市立福原小学校	3年
	原田 侑芽	尾花沢市立尾花沢小学校	3年

●2部 (小4～6年)

山形県知事賞	脇本 柑那	尾花沢市立玉野小学校	5年
山形県農協中央会会長賞	堀 小春	鶴岡市立斎小学校	6年
優 秀 賞	會田 絢葉	尾花沢市立常盤小学校	4年
	二戸 寧音	新庄市立萩野学園	5年
	浅沼 新菜	舟形町立舟形小学校	6年
	鈴木 心彩	長井市立豊田小学校	6年
	早坂 百禾	大蔵村立大蔵小学校	6年

●3部 (中1～3年)

山形県知事賞	松田 莉奈	山形市立第二中学校	1年
山形県農協中央会会長賞	斎藤 茉緒	山形市立第二中学校	2年
優 秀 賞	加藤 優愛	山形市立第九中学校	1年
	阿部 幸歩	山形市立金井中学校	2年
	斎藤 実柚	山形市立第二中学校	3年
	佐藤 海咲	山形市立第二中学校	3年
	村井菜々子	米沢市立第二中学校	3年

●学校奨励賞

尾花沢市立玉野小学校
山形市立第二中学校

●全国優秀賞／山形県知事賞●

「カレーを食べてるわたし」

大江町立左沢小学校二年

いがらし ゆきの
五十嵐 雪乃



●山形県農業協同組合中央会会長賞●

「外でおにぎりいただきます!」

尾花沢市立尾花沢小学校三年

とがし みさき
富樫 美咲



●全国優秀賞／山形県知事賞●

「未来で輝く玉野のお米」

尾花沢市立玉野小学校五年

脇本 柑那
わきもと かんな

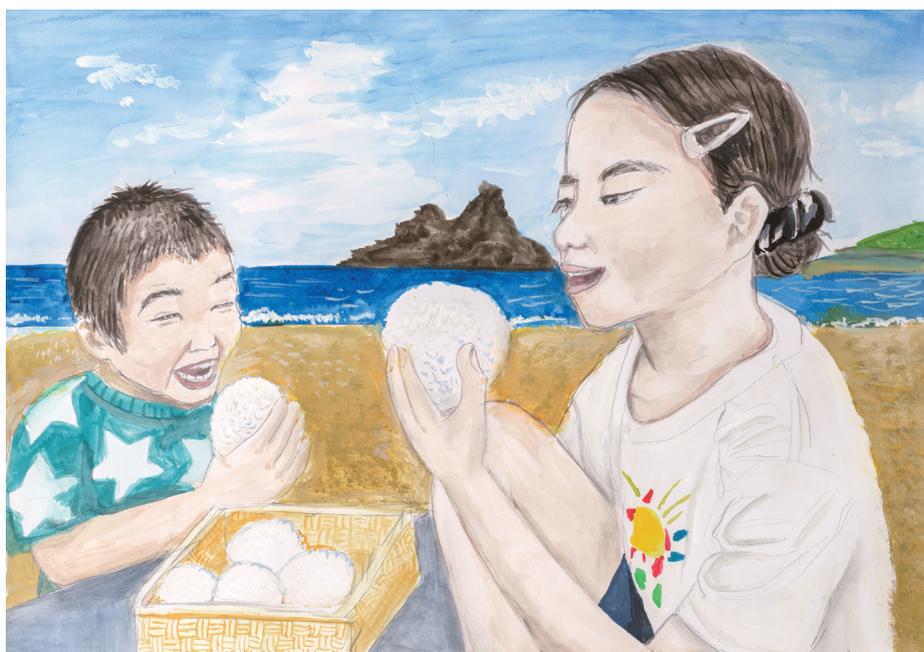


●山形県農業協同組合中央会会長賞●

「潮風とおにぎり」

鶴岡市立斎小学校六年

堀 小春
ほり こはる





●全国優秀賞／山形県知事賞●

「休憩するおばあちゃん」

山形市立第二中学校二年

松田 莉奈
まつだ りな



●山形県農業協同組合中央会会長賞●

「元気がでるおまじない」

山形市立第二中学校二年

齋藤 茉緒
さいとう まお

●全国優秀賞／山形県知事賞●

田んぼはみんなのたからもの

高畠町立糠野目小学校三年

齋藤 さいとう

楓 かえで

私は、あつあつのごはんにのりをくるんで食べる
ことが大好きです。

「もりもり食べてすごいね!」

お父さんとお母さんはそう言っていていつもほめてく
れます。私のいいところは、すききらいなくごは
んを食べられるところです。

私の家の周りには、お米を作る田んぼがたくさん
あります。しば犬のものさん歩をしていると
きに、かんさつをしてみました。

春、田うえが始まると、ゲロゲロとカエルの合
しょうが聞こえてきます。カエルは、田んぼの虫
を食べて生きています。

夏、私の家には毎年ツバメがやってきます。田
んぼのどろを口ばしにくわえてきて、器用にまる
でおわんのような形の巣を作っていました。その

巣から、今年は五わのひなが元気に巣立って行き
ました。

秋、田んぼはいつの間にか、きれいな金色にな
りました。田んぼから、聞こえてくる音がかわつ
ています。カサカサという音になって、トンボやい
なごがとんでいます。

冬、田んぼに雪がつもってまっ白です。ガアガア
と空から鳴き声が聞こえると、白鳥のむれがやつ
てきます。白鳥は、田んぼを口ばしでつついてい
ました。ふしぎに思ってお父さんに聞いてみると、
こう教えてくれました。

「田んぼに落ちているお米や、土の中にいる生き物
を食べているんだよ。」

田んぼは、お米を食べる私たちにも、お米を食べ
ない生き物たちにも大切です。田んぼがあるから、
たくさんいのちがあることが分かりました。

その年にしゅうかくされたお米を「新米」とい
うそうです。お米や田んぼのことを知ると、ごは
んをもっとおいしく食べられそうです。大すきな
ごはんをおなかいっぱいに食べられることに感しや
をして、「いただきます」を大切にしていきたいです。

●山形県農業協同組合中央会会長賞●

またやりたい田んぼのしごと

鶴岡市立京田小学校二年

齋藤 睦輝
さいとう むつき

「むつきや、田んぼの手つだいでしてくれ〜。」
と、おまつりの前の日に。パパに言われた。

「じじもやる?」

「うん。」

「むー、田うえきにのりたい!」

「ぜんぜんいいよ。手つだつてくれ。」

ほいく園のころは、ぼくは見ていただけだった。でも、一年生になってからすこしお手つだいをするようになった。今年は、田うえきのそうじゅうせきに一人でのせてもらった。うちの田うえきは、自どうでうごいてすごい。

「ガンダムみたいで、かっこいい!」

ぼくは、田うえきをAIロボットみたいだと思つた。そのかっこいい田うえきを上手にうんでんして

いる。パパは、めちやくちやかっこいい!

ぼくは、田んぼのしごとが大好きだ。いろんなきかいをつかう。いろんな生きものもいる。あきた時には、じじの長ぐつをはいて田んぼに足をつつこんで、あそぶのも楽しい。

ぼくは、なえのはこをはこんだり、あらつたりするお手つだいもした。お昼の休けいの時、
「パワーためる!」

と、ぼくはナタデココ入りのぶどうゼリージュースを買つてのんだ。元気まんたん!田うえの手つだいをじじやばばといっしょに一日やった。つかれて頭がくるいそうだった。でも、きよ年はおもくでできなかったなえのはこあらいを今年はガシヤガシヤできた。あれやると体力つかつちやう。でも、楽しかった。ちよつと自分がすごくなつた気分。

ぼくは、大きくなつたらしょうぼうしになりたい。そして、のう家もする。お米を作る。自分でそだてたお米は、きつとせかい一うまい!。パパみたいに、かっこよく、おいしいお米を作るぞ!カエルはきらいだけどね。

●山形県知事賞●

体験、研究で学んだお米の大切さ

鶴岡市立藤島小学校六年

わたなべ
渡部 ひかり

「おはよう。」

朝台所に入ると、いつも朝ご飯を作るおばあちゃん、炊きたてのご飯とみそ汁があります。ガス釜で炊いたご飯はふつくらとじていて、つやつやで甘みがありいつもごちそうより先に全部食べてしまいます。

「卵焼きどが野菜も一緒食べれよ。」

とおばあちゃんに言われますが、何もかけない白いご飯が一番おいしくてやめられません。

私の家は農家なので、春になると種まきや田植えが始まります。去年まではお父さんのトラク

ターや田植え機、コンバインに乗せてもらって見ていましたが、今年は初めて家族みんなで田植えをしました。帽子と運動着、長靴で田んぼに入り、トラックから苗が入った箱をおろして田植え機に乗っているお父さんに渡したり、空になった箱を水路で洗ったりしました。それを何十回もくり返しながら田んぼに苗が植えられていくのを見て、田んぼの仕事はこんなに大変なんだ、毎日当たり前のようにおいしいご飯が食べられるのはお父さんやおじいちゃん、おばあちゃんが一生懸命に田んぼの仕事をしてくれたからなんだと思いました。田植えの後にも毎日の田んぼへの水入れや、除草剤散布、草刈り、水はけを良くするための溝切りなどおいしい米を収穫するためにやることがたくさんあると聞きました。私が学校に行ったり、友達と遊んだりしている間も毎日仕

事をしてくれていることにありがたいの気持ちでいっぱいになりました。

五年生の時に田植えと稲刈りを初めて体験し、今年では家で田植えを体験したことがきっかけでさらにお米のことを知ってみたくなり、夏休みの自由研究で「世界の米料理」について調べました。私は、ご飯を食べている国は、日本や中国、韓国だけなのかと思っていました。世界の五十ヶ国以上で食べられていてその食べ方はたくさん種類があることを知りました。また、日本の米はジャポニカ米という種類に分けられ、白いご飯が基本ですが、他にインディカ米やジャバニカ米という種類があり、それぞれ見た目や食感が違い、それに合わせて料理されていることも知りませんでした。調べていくうちに、他の国で食べられているご飯も食べてみたくなり、お母さんとハワイで

食べられているロコモコを作って食べました。自分で作った料理は作ってもらって食べる料理とはまた違って、一口二口大事に味わって食べようという気持ちになり、とてもおいしく感じました。

お米にかかわる体験や研究をしたことで、毎日当たり前のように食べていたご飯は家族やたくさんの方の努力のおかげで食べられること、お米は私達の生活に欠かせないものでありとても大切であることを学びました。ご飯が食べられる幸せと家族に感謝の気持ちをもって、大切に食べていこうと思います。



●山形県農業協同組合中央会会長賞●

山形からつながるお米の未来

米沢市立愛宕小学校六年

杉澤 すぎさわ 美月 みづき

お米とわたし。正直、私は毎朝パンを食べています。ご飯とみそ汁というよりは、パンと牛乳の方が身近に感じます。でも、今年、お米のニュースが毎日テレビで流れていて、改めてお米について考えました。

私が暮らす山形県米沢市はお米の産地で、私の通学路のすぐ近くには田んぼがあります。春、田んぼに水が入るとお米の季節が始まるなと思います。夏になるとお米が育って、青い空に白い雲、緑の田んぼは、自然の豊かさを感じます。秋になると田んぼが黄金色になって、そろそろ新米が

食べられるなと思います。私の親せきは、稲かりをするとおもちをついてくれるので、それがとても楽しみです。田んぼはいつもそばにあるけれど、ニュースを見たり、お米の学習をしたりして、農家さんが大変な思いをして育てているということが少しずつ分かってきた気がします。

今年の春、親せきの人が集まった時に、山形県外の人が「こんなにおいしいおにぎり食べたことがない」と言っていました。おいしいおにぎりではあつたけれど、そんなにおどろくんだと思いました。私は改めて山形のお米のおいしさを知って、山形県民であることを誇らしく思いました。

山形県のお米といえば、やっぱりつや姫です。つや姫を育てることは、とても大変だと聞いたことがあります。つや姫は、山形県の農家が誇りをかけて作ったお米で、つや姫の栽培マニュアル通り

に栽培し、一定の基準を通ったお米しかつや姫として認められないシステムになっていると聞きました。そんなつや姫は山形県の自慢のお米です。

私は五年生のときに田植えと稲刈りを経験しました。田植えは足が泥に埋まってしまつて上手く歩けないし、植えようとしても苗はなかなかまつすぐに立たなくて、とても難しかったです。稲刈りをするのもとても大変でどれだけ鎌で切ろうとしても切れませんでした。刈った稲を一つに結ぼうとしても全然上手く結べなくて、とても大変でした。今は機械があるけれど、昔の農家さんはこんなに大変な思いをしてお米を育てていたんだなと思いました。

最近、令和の米騒動が起こっています。つや姫は、今は去年の倍の値段になってしまいました。米不足が起きていたとき、五キロのお米が買えな

くなつてしまつて、お母さんといろいろなスーパーをまわつて、やつと二キロのお米を買えた思い出があります。お米がなくなるのは、本当に困ります。そして、お米の適正価格とは、いったい何なのだろうと思いました。今はたしかに高いとは思いますが、前は少し安すぎたのかもしれない。

お米のことを知れば知るほど、いつも身近だったお米のありがたさを感じます。私はこれからもお米を味わつて、おいしくいただきたいと思っています。



●全国優秀賞／山形県知事賞●

家族を笑顔にする、山ちゃんの米

米沢市立第一中学校二年

梅津 うめつ 琉生 りゅうせい

我が家で食べている米は、祖父の昔からの友人である山崎さんが作っている米だ。もう何年も前から祖父が田植えをして、稲刈りの時期になると山崎さんの家に手伝いに行き、夜は、その二人でお酒を交わすことが毎年恒例となっている。年齢を重ねるたびに、作業時間よりお酒を交わす時間の方が長くなっているようにも思えたが、日ごろから野菜の成長具合を話したり、相手の体を気遣う声をかけたりと何年経っても仲の良い友達関係にあることがすごいと思った。

そんな仲のよい祖父の友人を我が家では「山ちゃん」と呼び、山ちゃんの米や野菜、産みたての卵を食べては、「山ちゃんの作ったものは格別！」

と家族みんなで味わっている。そのたびに母は、同じ野菜を作っている祖父に対し、山ちゃんと祖父の野菜の出来具合を比較するようで申し訳ないと思うのか、「こうやっておいしい米や野菜を食べられるのもじいちゃんが山ちゃんを手伝っているからだね」と気を遣った。

新米の時期になると、いつもおいしい米がよりいつそう甘く、炊飯器の蓋を開けるとキラキラ輝いて見える。そしてその米を食べては、家族みんなが「おいしい！」と毎度のように笑顔になった。

しかし、ここ数年前から、猛暑が続き米の収穫量が少なくなった。さらに外国人の日本への旅行客が増え、米の消費が多くなったこと、また米不足がマスコミで報道され、不安になった住民が多く買い占めたことなどが重なり、日本は深刻な米不足になった。テレビでも、いつもお店に並んでいるはずの米が全くない様子や、米の代わりにパンや焼きそばを食べているというインタビューを見たことがある。けれどぼくの家には、いつも米があつたので、不安になることはなかった。

「うちは米をどうしているの？」と母に聞くと、「山ちゃんにもらつているから助かるのよ」と答えた。ぼくは、当たり前のように毎日米が食卓にでてくるので、米があることをそんなに貴重だと思わなかった。

しかし、千葉に住む兄が久しぶりに米沢に帰ってきたあの日から、そんなぼくの考えは一変した。兄は大学野球部に所属しており、年末にしか帰ってこない。その兄が帰ってくると、不思議と我が家の食卓は豪華になる。「なにこれ！めっちゃうまい！」と兄がよく噛みもせずどんどん口に入れたのは、豪華なおかずでもなく、おふくろの味でもなく、山ちゃんの白米だった。しかも白米だけで何杯も何杯もおかわりをした。ぼくは驚いた。ただの白米をこんなにおいしく食べる人を初めてみたかもしれない。兄はもちろん千葉でも米を食べていたが、やっぱり山ちゃんの米が格別だったということをあとから知った。僕は、いつも当たり前のように食べている米がどれだけ贅沢で貴重なものかを思い知った。

ぼくも小さい頃から、兄と同じ野球をしており、母には「米を食べないと大きくなれないよ」、「米を食べないとホームラン打てないよ」と何度となく言われ続けてきた。体調が悪い時でさえも、「米を食べないと元気にならないよ」と言われた。小さい頃から言われ続け、ぼくは毎日米を食べ、大きく成長した。また、今年の春から姉も大学生になり、米沢を離れた姉にも、母が宅急便で山ちゃんの米を送っている。兄は寮に住んでいながらも、やっぱり山ちゃんの米を食べたくなるよう、姉と同じ宅急便で送っている。こうして二人は、米沢を離れてもいつものように山ちゃんの米を味わうことができていく。

僕たち家族はこうして離れていても、いつだって食卓の上で山ちゃんの米でつながっていて、おいしい米が僕の家族のみんなを笑顔にしてくれる。そして、山ちゃんの米は体も心も丈夫にしてくれるミラクルな米だ。

●山形県農業協同組合中央会会長賞●

おにぎりに込められた努力に感謝

米沢市立第四中学校一年

房間 円花

「おにぎりがいい。」

体育祭や大会の日は、必ずお弁当をおにぎりにしてもらおう。一番好きなのは塩むすび。ほんのりとしたご飯の甘みが引き立って、元気が出る。私にとつておにぎりは力の源だ。

最近、おにぎりの元となるお米の値段は高騰している。「二倍近くになった。」と母も嘆いていた。都会に住む親戚からは、お米が売られていないから送ってほしいと頼まれた。山形自慢のつや姫を送ると、大変喜ばれた。

お米はどこでも手に入る当たり前の食べ物だと思っていたので正直驚いた。なぜこんなにも高くなったのか調べてみると、気候変動や農家減少な

どが重なったことが要因だと分かった。お米は山の人の努力に支えられているのだ。そんな風に感じられるようになったのは、田んぼアートに参加してからだ。

春、代掻きが終わった田んぼに行き、他の参加者と一緒に田植えをした。畦道を歩くとカエルやイナゴなど、沢山の生き物がいた。田んぼって、稲を育てるだけでなく生き物たちの大切なすみかでもあるんだと実感した。田んぼの泥は想像以上の冷たさで足を引き抜くたびにねっとりとした感触がして、転びそうになりながら苗を植えている。まっすぐ植えることすら難しい。「楽しそう」と思っただけで参加したけれど、だんだん腰が痛くなり、疲れてきた。でも、今日植えた苗は膨大な田んぼの一部にすぎない。そう気づいた時、農家さんの毎日の努力の積み重ねが、おにぎり一つに詰まっているのだと身にしみてわかった。

秋になり、家族で田んぼを見に行くと、色の違う稲で迫力満点な絵がくつきりと描かれていた。青々とした田んぼには元気をもらえるが、田

んぼアートには見る人を楽しませる力もある。観光客も、とてもきれいだ后感嘆していた。それを見て、私の植えた苗もこの絵の一部になっていると思うと誇らしい気もちになった。しかし、植えただけでは苗は育たない。農家の方達が他にも様々な作業をしてくれたからこそ、こうして稲が育ったと思うと、いつものご飯も特別な味がする。

稲刈りも大変だった。腕はすぐ疲れ、刈った稲を運ぶのも重く全身がくたくたになった。スタッフの方に、

「これで終わりじゃないよ。これから色々な作業をしてやつとご飯になるんだよ。」
と教えてもらい、農家さんの大変さを身をもって知ることができた。

その後、自分で植えて刈ったお米を貰い家族で食べた。一口食べると、泥の感触や田植え、稲刈りの大変さがよみがえり、おにぎり一つに沢山の努力と手間が必要だということを心から感じた。ただ食べるだけでは気づけなかったありがたさに気づくことができたのは、田植えや稲刈りを自分

でやってたからこそだと思う。以前は高いと思っていた価格も、農家さんの努力を知った今では納得できる。

そして、二口三口と食べ進めるうちに、もう一つのこと気づいた。私の力の源、おにぎりのことだ。おにぎりは沢山の思いと努力の結晶なのだ。農家の方が丹精込めて育てた米や、朝早くから作ってくれる母の思いが、ぎゅつと握られている。だから、食べる時と頑張ろうと思えるのだ。

「おにぎりがいい。」

夏休みに行われた大会当日、私はいつものように、おにぎりのリクエストをした。お昼にお弁当箱を開け、さつそくおにぎりをほおばった。様々なことに気づいたからなのか、口いっぱい広がる塩むすびのやさしい味に、自然と力が湧いてきて、いつも以上に頑張ろうという気持ちが強くなった気がした。もちろん、このおにぎりが食べられるのも当たり前ではない。これからも、一口二口に込められた、沢山の思いや努力に、感謝の気持ちを持って、大好きなおにぎりを食べていきたい。

作文部門審査講評

山形市立第七小学校校長

小沼裕佳理

第五十回「ごはん・お米とわたし」作文コンクールには、全国の小中学校から二万六千九百七十二点というたくさん作品の応募がありました。県内からも二百十三点の作品が寄せられました。食・農への強い興味・関心や思いが、このように多くの作品となつて寄せられていることに、子どもたちが、これからの社会を力強く動かしてくれるのだろうと頼もしさを感じます。

今年作品からは、米作りをする家族のお手伝いやお米を使つての料理体験、田んぼから感じる季節の変化などを通して、農家の方々や家族への感謝の気持ちを表現している作品が多いことが印象的でした。それぞれの作品からは、「ごはん」「お米」を視点に日常を見つめることで、家族の温かな絆や自分の成長を感じ、暮らしの中で新たな発見をしていることが伝わってきました。「ごはん」「お米」についての文章を書くことを通して、自分たちの暮らしや文化、人との関わり、社会そのものなどに思いを寄せ、自分なりの考えをもつ力が育つていることを、作文審査をさせていただくことによつて感じました。今後も本コンクールが「ごはん」「お米」とのつながりを再認識し、新たな気づきを得る契機になれば幸いです。

今年も、本県の作品が全国コンクールの優秀賞受賞という荣誉に輝いています。ここでは、本県において、山形県知事賞、山形県農業協同組合中央会会長賞を受賞された作品を紹介します。

一部(小学校一年生から三年生)

○「田んぼはみんなのたからもの」

(高島町立糠野目小学校 三年 齋藤楓 山形県知事賞)

春のカエルの合唱、夏にツバメが器用に巣を作る様子、秋の田んぼから聞こえる音の変化、冬の白い田んぼにやつてくる白鳥の様子と、季節ごとの田んぼの変化が音や色、動きで豊かに表現され、映像を思い浮かべることができ文章に引きこまれます。田んぼで生きる生き物たちにとつても、田んぼが大切であること、そしてその田んぼが大好きなことが、強く伝わってきました。

○「またやりたい田んぼのしごと」

(鶴岡市立京田小学校 二年 齋藤睦輝 山形県農業協同組合中央会会長賞)

田んぼのお手伝いをするときに、田植え機の操縦席に一人で乗せてもらった睦輝さん。田植え機が「ガンダムみたいでかっこいい！」ことや、パパとの楽しそうな会話が短い会話文で表現され、田んぼの仕事が大好きなことがよくわかります。去年は重くてできなかった仕事もできて、「ちよつと自分がすこくなつた気分」ですね。田んぼの仕事を通して、自分の成長に気づき、将来も米作りをする強い意欲が表された作品です。

二部(小学校四年生から六年生)

○「体験、研究で学んだお米の大切さ」

(鶴岡市立藤島小学校 六年 渡部ひかり 山形県知事賞)

ひかりさんの家族は、米づくりをしています。その手伝いや、学校での田植え

体験を通して、農家への感謝の気持ちを強めています。さらに、世界のお米はどうなっているのかについて興味を広げ、たくさん種類があることを知るだけでなく、実際に料理を作つて食べることで、一口一口を味わつて食べる素晴らしさに気付いています。この行動力からも分かる通り、「何もかけない白いご飯が一番おいしくてやめられません」と語るひかりさんのお米に対する熱い思いが存分に伝わる作品になっています。

○「山形からつながるお米の未来」

(米沢市立愛宕小学校 六年 杉澤美月 山形県農業協同組合中央会会長賞)

通学路の近くには田んぼがあり、四季折々の田んぼの変化についての気づきや、県外の人の言葉から感じたことが書いてあり、お米に対する関心がより大きくなつていくことが伝わってきました。田植えと稲刈りの経験から、米作りがとても大変だということを実感しているんですね。令和の米騒動という社会の動きとスーパーをまわつてお米をさがしたこともつながつて、経験からお米のありがたさを強く感じていることが表現された作品です。

三部(中学生)

○「家族を笑顔にする、山ちゃんのみ」

(米沢市立第一中学校 二年 梅津琉生 山形県知事賞)

冒頭では、祖父とその長年の友人である「山ちゃん」との関係性や、「山ちゃん」の作る米を家族がおいしく食べる様子を、味わい深く表現しています。また、離れて暮らす兄が久しぶりに帰省したときに、おかずではなく白米を何杯もおかわりする様子から、米不足の深刻さを実感しつつ「山ちゃんのみ」を食べることができていることに感謝の念を抱く流れがスムーズです。

米には、人と人とを結びつけ、温かな関係を築く力があることを、素直に表現した作品です。

○「おにぎりに込められた努力に感謝」

(米沢市立第四中学校 一年 房間円花 山形県農業協同組合中央会会長賞)

「おにぎりがいい」で始まる書き出しと、終末部で語られる「おにぎりがいい」の言葉に表象されるように、経験したことを通してお米に対する自身の思いを力強く決意として書き表した点を高く評価しました。

田植え、田んぼアート、稲刈り、収穫まで参加し、その時に見た季節の姿を一つひとつ吟味された言葉に託しています。米づくりが農家の方の努力に支えられてきたことを描き、作品そのものが感謝に溢れたぬくもりのある味わいとなつています。

山形県学校奨励賞

今年度の山形県学校奨励賞は、山形市立出羽小学校と米沢市立第四中学校が受賞されました。

節目である五十回目を迎えた「ごはん・お米とわたし」図画コンクールに、全国の小・中学校から三万九千七百七十点の作品が寄せられました。県内からは例年並みの九百七十四点の応募がありました。今年度も多くの子供たちが意欲的に作品を制作し、出品してくれたことを大変嬉しく思います。本コンクールに応募された小・中学校の皆さんが、作品制作を通して食への理解と学びを深め、日本の主食であるお米やごはん食の魅力や再認識し、発信できる人となることを期待しています。

応募作品を拝見すると、お米をいただける有難さやごはん食の魅力を描こうとしている作品が多くありました。おにぎりをほお張る様子を描いた作品や、炊き上がったごはんを描いた作品、米作りを通じた関わりやぬくもり、お米や水田から空想したことなど、実に様々な表現対象や方法があるものだと、時折、感嘆の声をあげながら見入ってしまいました。各作品に共通することは、米作りに携わっている方や毎日ごはん食をつくってくれる方への感謝の気持ちが込められていたことでした。

今回審査するにあたっては、自分が感じたり想像したりしたことを、自分らしく個性豊かに表現できたかどうかを特に重視したところです。

今年度は、全国審査において、三つの部すべてで優秀賞入賞という輝かしい結果となりました。誠にありがとうございます。ここでは、山形県知事賞、山形県農業協同組合中央会会長賞を受賞された作品を紹介します。

一部(小学校一年生から三年生)

○「カレーを食べるわたし」

(大江町立左沢小学校 二年 五十嵐雪乃 山形県知事賞)

青空の下、カレーライスを元気に口に運ぶ作者のうれしそうなお気持ちが、画面いっぱいから伝わってくる作品です。ごはんはきつと炊き立てなのでしょう。あたたかさそうな湯気が効果的に表現されています。透き通る空には、きれいな虹もかかっており、大好きなものに囲まれた作者のわたしは、とっても幸せそうです。鮮やかな色づかいとびやかなタッチ、大きく描かれた人物の表情は、見ている人を幸せな気持ちにしてくれます。

○「外でおにぎりいただきます!」

(尾花沢市立尾花沢小学校 三年 富樫美咲 山形県農業協同組合中央会会長賞)

緑が広がるながめのよい所でお張るおにぎりは、きつと格別においしかったのでしよう。大きな口でおいしそうにほおばる作者の気持ちが見ている人にも伝わってきます。色づかいも効果的で、中心として使っているピンク、水色、緑色がトーンを変えて使用され、しましま模様やストライプが作品のアクセントになっています。心の中の思い出を、工夫を凝らし楽しながら描いている作品です。

二部(小学校四年生から六年生)

○「未来で輝く玉野のお米」

(尾花沢市立玉野小学校 五年 脇本柑那 山形県知事賞)

田植えを協力して行う様子を描いた作品の中に、たくさんの魅力がみつっています。まず、一人一人の向きやポーズが違うことが目を引きます。また、体をかがめて懸命に役目を果たそうとする姿、息を合わせて杵を転がそうとする気持ちが表れています。水面に映る青空から、よい天候のもと田植えが行われたこともうかがえました。五感をフルに使って育てた米作りは未来に引き継がれていくことでしょう。

○「潮風とおにぎり」

(鶴岡市立斎小学校 六年 堀小春 山形県農業協同組合中央会会長賞)

題名にある潮風とおにぎりの塩分が調和している感じを受けます。お米の味を引きだす塩がまぶされたおにぎりを、笑顔で分かち合う幸福な時間。いつまでも胸に刻んでおきたいコマを、心を込めて画面に収めました。おいしいお米をよりおいしく食べるために家の外に出てみよう、好きな場所に行つて食べてみようというメッセージを私たちに届けてくれた、さわやかで温かみのある作品です。

三部(中学生)

○「休憩するおばあちゃん」

(山形市立第二中学校 一年 松田莉奈 山形県知事賞)

農作業の合間に休憩するおばあちゃんの満面の笑みが、見る側を幸せにしてくれます。手に持っているおにぎりも一粒一粒しっかりと描き込まれており、戸外で食べるお米のおいしさがよく伝わってきます。おばあちゃんの作者を見る目が優しく、家族の温かさを感じられる作品です。作品制作を通して、家族や地域に目を向け、ふるさとである山形を大切にすることに育つてほしいと改めて思いました。

○「元気がでるおまじない」

(山形市立第二中学校 二年 齋藤茉緒 山形県農業協同組合中央会会長賞)

にぎられたおにぎり一つ一つに、愛情がぎゅっしり詰め込まれていることが、作品全体から伝わってきます。特に、面の中央に描かれた白米の中の梅干しと、描き込まれた手の表情に、おにぎりを食べて元気になってほしいという作品の主題が、よく表れています。また、机の上の様子、炊飯器や皿も大変丁寧に描かれており、ごはんの美味しさをより引き立たせています。

山形県学校奨励賞

今年度の山形県学校奨励賞は、尾花沢市立玉野小学校と山形市立第二中学校が受賞されました。

第43回	第42回	第41回	第40回	第39回	第38回
<p>山形県</p> <p>●県知事賞 柴田 隼(山形市) 佐藤 椰(庄内町) 手塚 大地(米沢市)</p> <p>●県中央会会長賞 杉浦 凜(米沢市) 原田 昊土(鶴岡市) 丸谷 亮太(鶴岡市)</p> <p>●優秀賞 峯田 孝誠(米沢市) 齋藤 夢佳(村山市) 土田 覇瑠(村山市) 天野 悠都(村山市) 青木 舞桂(米沢市) 安部くるみ(米沢市) 加藤 花音(高島町) 本間 智妃(三川町) 高橋龍之介(南陽市) 樋口 佳汰(白鷹町) 伊藤 葵(川西町) 齋藤由希哉(高島町) 佐藤 弥桜(鶴岡市) 梅本 京香(鶴岡市) 夏田 夏海(鶴岡市)</p> <p>●学校奨励賞 村山市立楯岡小学校 川西町立川西中学校</p>	<p>山形県</p> <p>●県知事賞 安部くるみ(米沢市) 佐藤 舜太(米沢市) 鈴木 雄貴(米沢市)</p> <p>●県中央会会長賞 佐藤 花音(三川町) 千田 悠悟(南陽市) 伊藤 芽琉(山形市)</p> <p>●優秀賞 鈴木 萌音(山形市) 佐藤 純真(高島町) 齋藤 逞真(最上町) 阿部 璃空(新庄市) 手塚 遥斗(高島町) 手塚 大地(米沢市) 加藤 響(大蔵村) 井上 櫻子(高島町) 星 七菜子(新庄市) 阿部 真宙(最上町) 平清水なおり(山形市) 高橋 陸斗(山形市) 大橋 彩未(米沢市) 佐藤慶太郎(川西町) 鈴木 広美(米沢市)</p> <p>●学校奨励賞 米沢市立塩井小学校 米沢市立第二中学校</p>	<p>山形県</p> <p>●県知事賞 野川 裕太(米沢市) 高橋 悠太(天童市) 佐藤 百華(米沢市)</p> <p>●県中央会会長賞 木内 春陽(東根市) 伊藤 柚葵(天童市) 松本 季子(米沢市)</p> <p>●優秀賞 鈴木 あこ(庄内町) 安部くるみ(米沢市) 加藤 翼沙(高島町) 柴崎 皓大(最上町) 堀川 遙(天童市) 大場新之助(最上町) 伊藤 楓華(天童市) 大類 渚(天童市) 佐藤 里菜(米沢市) 小野 海咲(最上町) 高橋 夢月(米沢市) 山木 穂(米沢市) 竹田 勇貴(米沢市) 鈴木 里桜(米沢市) 舟山 楓夏(山形市)</p> <p>●学校奨励賞 天童市立津山小学校 米沢市立第二中学校</p>	<p>山形県</p> <p>●県知事賞 鈴木 佑佳(山形市) 佐藤虎太郎(真室川町) 吉田 ゆい(米沢市)</p> <p>●県中央会会長賞 畠腹 里玖(新庄市) 伊藤 晴夏(三川町) 山口 雅乃(鶴岡市)</p> <p>●優秀賞 安部くるみ(米沢市) 中川 峻(南陽市) 木内 春陽(東根市) 早坂 涼太(東根市) 川田 健太(新庄市) 笠原 莉玖(新庄市) 小下 健太(高島町) 田中 空來(寒河江市) 佐藤 弥桜(鶴岡市) 庄司潤一郎(真室川町) 橋本 朱音(米沢市) 新野 涼香(川西町) 高橋 未旬(米沢市) 高野穂乃花(山形市) 伊藤 寧音(山形市)</p> <p>●学校奨励賞 新庄市立萩野小学校 米沢市立第二中学校</p>	<p>山形県</p> <p>●県知事賞 門脇 陽希(大蔵村) 後藤 芽衣(河北町) 森村 春輝(山形市)</p> <p>●県中央会会長賞 軽部 翔真(寒河江市) 青木 実央(新庄市) 留守めぐみ(米沢市)</p> <p>●優秀賞 後藤 天星(最上町) 早坂 颯真(東根市) 加藤 響(大蔵村) 後藤 有瑠(高島町) 伊藤准輝聖(高島町) 小澤 爽太(白鷹町) 五十嵐広大(鶴岡市) 丸山 美優(鶴岡市) 打田ゆらら(白鷹町) 荒木 怜(最上町) 八巻 怜花(米沢市) 山口 雅乃(鶴岡市) 今野 佑香(米沢市) 渋江 初菜(山形市) 井上 砂城(鶴岡市)</p> <p>●学校奨励賞 大蔵村立大蔵小学校 山形市立第三中学校</p>	<p>山形県</p> <p>●県知事賞 佐々木美耀(米沢市) 高橋満里奈(新庄市) 小野寺涼太(鶴岡市)</p> <p>●県中央会会長賞 阿部 聖音(酒田市) 佐藤 礼夢(鶴岡市) 安部 優香(米沢市)</p> <p>●優秀賞 上林 奈央(鶴岡市) 津藤 奏(山形市) 小野幸治郎(大蔵村) 早坂 大翔(大蔵村) 安部 真桜(米沢市) 田村 健人(米沢市) 諏訪 琳音(鶴岡市) 大滝 星矢(鶴岡市) 佐藤 陽理(南陽市) 伊藤 日高(鶴岡市) 伊藤 優太(山形市) 鈴木 千絵(南陽市) 高橋真穂子(南陽市) 石原 花凜(飯豊町) 清和 怜真(鶴岡市)</p> <p>●学校奨励賞 大蔵村立大蔵小学校 鶴岡市立朝日中学校</p>
<p>全国</p> <p>●優秀賞 佐藤 椰(庄内町)</p>	<p>全国</p> <p>●全国農業協同組合中央会会長賞 早坂 佑羽(大蔵村)</p> <p>●優秀賞 佐藤 舜太(米沢市)</p>	<p>全国</p> <p>●優秀賞 野川 裕太(米沢市) 高橋 悠太(天童市) 佐藤 百華(米沢市)</p>	<p>全国</p> <p>●全国農業協同組合中央会会長賞 後藤 天羽(最上町)</p> <p>●優秀賞 吉田 ゆい(米沢市)</p>	<p>全国</p> <p>●農林水産大臣賞 松浦蒼一郎(庄内町)</p> <p>●優秀賞 門脇 陽希(大蔵村) 後藤 芽衣(河北町) 森村 春輝(山形市)</p> <p>●学校奨励賞 庄内町立余目第一小学校</p>	<p>全国</p> <p>●優秀賞 小野寺涼太(鶴岡市)</p>
<p>山形県</p> <p>●県知事賞 遠藤 嘉乃(尾花沢市) 遠藤 真心(尾花沢市) 富樫 優有(山形市)</p> <p>●県中央会会長賞 佐藤 瑛太(尾花沢市) 石山 万莉(尾花沢市) 加藤百合聖(新庄市)</p> <p>●優秀賞 安彦咲汰朗(南陽市) 二戸 心菜(最上町) 後藤 莉渚(尾花沢市) 西塚 悠生(尾花沢市) 原田 僚(尾花沢市) 永沢 真彩(尾花沢市) 齋藤 真輝(鶴岡市) 村上 茉生(三川町) 佐藤 結望(三川町) 高橋 伊吹(尾花沢市) 原田 陽菜(山形市) 木元素玖凜(鶴岡市) 薬科ひなた(米沢市) 松田 桃香(鶴岡市) 箱山 妃南(新庄市)</p> <p>●学校奨励賞 尾花沢市立玉野小学校 山形市立金井中学校</p>	<p>山形県</p> <p>●県知事賞 和田 紗夢(山形市) 秋保 大地(尾花沢市) 富樫 優有(山形市)</p> <p>●県中央会会長賞 加藤 朱葵(南陽市) 元木 煌瑛(東根市) 石倉 妃華(山辺町)</p> <p>●優秀賞 小野健太郎(山形市) 佐藤この実(鶴岡市) 佐藤 明咲(最上町) 手塚 遥斗(高島町) 浦山 結羽(米沢市) 富樫 太一(尾花沢市) 二瓶 耕太(山形市) 三坂 琉音(尾花沢市) 志村直太郎(尾花沢市) 澤 悦菜(高島町) 渡邊 和哉(山形市) 齋藤 桃々(山形市) 松田 桃香(鶴岡市) 鈴木 里桜(米沢市) 箱山 妃南(新庄市)</p> <p>●学校奨励賞 山形大学附属小学校 山形市立金井中学校</p>	<p>山形県</p> <p>●県知事賞 鈴木 大智(高島町) 後藤 早希(東根市) 佐藤 龍心(鶴岡市)</p> <p>●県中央会会長賞 安野 世那(尾花沢市) 渡部 蓮(鶴岡市) 村山 亜弥(山辺町)</p> <p>●優秀賞 加賀山 蒼(鶴岡市) 三坂明日樂(尾花沢市) 山川 大翔(山形市) 石山 裕土(尾花沢市) 伊藤 愛陽(尾花沢市) 高橋 悠太(天童市) 菅野 柚杏(尾花沢市) 齋藤 美維(鶴岡市) 佐藤 陽菜(尾花沢市) 佐藤 樹杏(鶴岡市) 阿部 心暖(河北町) 齋藤 香奈(山形市) 齋藤 遥奈(山形市) 石川 妃咲(山形市)</p> <p>●学校奨励賞 尾花沢市立尾花沢小学校 山形市立金井中学校</p>	<p>山形県</p> <p>●県知事賞 熊谷飛悠吾(尾花沢市) 伊藤 拓磨(尾花沢市) 鎌田 龍也(山辺町)</p> <p>●県中央会会長賞 金内 大和(鶴岡市) 伊藤 未希(尾花沢市) 工藤 千慧(山形市)</p> <p>●優秀賞 石山 竜成(最上町) 松田 紗和(鶴岡市) 高橋 晴(最上町) 星 七菜子(新庄市) 笠原 未羽(最上町) 柴崎 大和(尾花沢市) 齋藤 詩歩(鶴岡市) 原田 麗(尾花沢市) 大江 誓羅(尾花沢市) 稲村 大和(大蔵村) 田中 未咲(山形市) 石澤 元乾(山辺町) 田辺 理紗(飯豊町) 中島 彩(山形市) 佐藤 龍心(鶴岡市)</p> <p>●学校奨励賞 尾花沢市立鶴子小学校 山形市立金井中学校</p>	<p>山形県</p> <p>●県知事賞 三嶋 優(尾花沢市) 佐藤ひより(山形市)</p> <p>●県中央会会長賞 鈴木 佑奈(大石田町) 遠藤 陸冬(尾花沢市)</p> <p>●優秀賞 星川 葵(尾花沢市) 原田 結奈(尾花沢市) 星川 梅(尾花沢市) 矢作 結苺(尾花沢市) 富樫 智花(山形市) 小野 慈和(尾花沢市) 今野 泰成(尾花沢市) 五十嵐雄汰(鶴岡市) 佐藤 夏都(鶴岡市) 菅藤 心菜(尾花沢市)</p> <p>●学校奨励賞 尾花沢市立福原小学校</p>	<p>山形県</p> <p>●県知事賞 阿部 大翔(尾花沢市) 二瓶 寛太(山形市) 平間 杏奈(山形市)</p> <p>●県中央会会長賞 江刺さくら(尾花沢市) 早坂 美羽(尾花沢市) 本澤 育実(山形市)</p> <p>●優秀賞 五十嵐羽琉(鶴岡市) 堀江 星琉(尾花沢市) 笹原 月吹(尾花沢市) 佐藤 愛心(村山市) 佐藤 なお(鶴岡市) 渡辺 成美(尾花沢市) 鈴木 来春(尾花沢市) 齋藤 亜子(尾花沢市) 菅藤 優成(尾花沢市) 佐藤 花玲(鶴岡市) 井上 楓(山形市) 山口 桃佳(山形市) 枝松 怜奈(山形市) 藤原 優衣(山形市) 齋藤 穂歌(山形市)</p> <p>●学校奨励賞 尾花沢市立尾花沢小学校 山形市立第九中学校</p>
<p>全国</p> <p>●優秀賞 遠藤 嘉乃(尾花沢市) 遠藤 真心(尾花沢市)</p>	<p>全国</p> <p>●文部科学大臣賞 井上 花帆(尾花沢市)</p> <p>●優秀賞 富樫 優有(山形市)</p> <p>●学校奨励賞 尾花沢市立尾花沢小学校</p>	<p>全国</p> <p>●優秀賞 鈴木 大智(高島町)</p>	<p>全国</p>	<p>全国</p>	<p>全国</p> <p>●優秀賞 平間 杏奈(山形市)</p>

第 50 回

「ごはん・お米とわたし」 作文・図画コンクール審査経過の概要

■ 応募数

作文：213点
 図画：974点 合計 1,187点

区分	1部	2部	3部	計
作文部門	62点	77点	74点	213点
図画部門	553点	353点	68点	974点

■ 審査

- (1) 県予選審査期日
 作文部門 令和7年10月16日(木)
 図画部門 令和7年10月14日(火)
- (2) 全国コンクール審査期日
 作文部門 令和7年11月11日(火)
 図画部門 令和7年11月14日(金)
- (3) 県コンクール審査期日
 作文部門 令和8年1月13日(火)
 図画部門 令和8年1月14日(水)

■ 図画部門 (3名)

審査委員長 今 将史 (東根市立東根中部小学校 校長)
 庄司 雅和 (山形市立蔵王第一中学校 校長)
 佐竹真理子 (山形市立第七小学校 教諭)

■ 審査結果

- (1) 県コンクール
- ・山形県知事賞 作文部門3名/図画部門3名
 - ・山形県農業協同組合中央会会長賞
 作文部門3名/図画部門3名
 - ・優秀賞 作文部門15名/図画部門15名
 - ・学校奨励賞 作文部門2校/図画部門2校
- (2) 全国コンクール (県内入賞者数)
- ・優秀賞 作文部門2名/図画部門3名

■ 審査委員

【県コンクール】

作文部門 (5名)

審査委員長 小沼裕佳理 (山形市立第七小学校 校長)
 澁間 安 (上山市立西郷中学校 教頭)
 小野 壮亮 (山形市立出羽小学校 教諭)
 萩原 溪太 (山形市立第九小学校 教諭)
 丹野 寛子 (天童市立第一中学校 教諭)

年度	部門	1部	2部	3部	合計
平成 19 (第32回)	作文	44	117	225	386
	図画	488	418	27	933
20 (第33回)	作文	58	84	231	373
	図画	550	412	27	989
21 (第34回)	作文	77	95	235	407
	図画	521	376	26	923
22 (第35回)	作文	68	151	196	415
	図画	531	308	67	906
23 (第36回)	作文	56	66	266	388
	図画	531	290	32	853
24 (第37回)	作文	51	61	211	323
	図画	424	309	36	769
25 (第38回)	作文	56	83	150	289
	図画	450	372	19	841
26 (第39回)	作文	95	134	150	379
	図画	353	382	19	754
27 (第40回)	作文	122	167	178	467
	図画	353	370	45	768
28 (第41回)	作文	124	165	121	410
	図画	464	361	64	889
29 (第42回)	作文	133	161	86	380
	図画	500	344	48	892
30 (第43回)	作文	86	136	94	316
	図画	462	349	48	859
31 (第44回)	作文	122	147	123	392
	図画	531	400	39	970
令和 2 (第45回)		コロナ禍のため中止			
3 (第46回)	作文	59	107	78	244
	図画	382	241	34	657
4 (第47回)	作文	57	112	75	244
	図画	479	302	42	823
5 (第48回)	作文	83	95	60	238
	図画	541	401	66	1,008
6 (第49回)	作文	80	112	51	243
	図画	546	411	67	1,024
7 (第50回)	作文	62	77	74	213
	図画	553	353	68	974

第50回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール募集要領

1. 趣 旨

本コンクールは、JAグループがすすめる「みんなのよい食プロジェクト」の一環として、これからの食・農・地域を担う次世代の子どもたちに、お米・ごはん食、稲作など、日本の食卓と国土を豊かに作りあげてきた水田農業全般についての学びを深めてもらうとともに、子どもたちの優れた作品を顕彰することを通じて、お米・ごはん食・日本食の重要性を広く周知することを目的として実施します。

2. 課 題 (作文・図画両部門共通)

毎日のごはんでおいしかったことや家族とのコミュニケーション、お米・ごはん食に関しての思い出や考えたことなどを素直な気持ちで自由に表現して下さい。

3. 応募資格

小学校および中学校に在籍する児童・生徒。
特別支援学校の小学部、中学部に在籍する児童・生徒。

4. 応募規格 (枚数・大きさ)

【作文部門】

- 1部 小学校1年生～3年生 (400字詰め原稿用紙2枚以内、またはマス目の大きい原稿用紙で800字以内)
 - 2部 小学校4年生～6年生 (400字詰め原稿用紙3枚以内)
 - 3部 中学校1年生～3年生 (400字詰め原稿用紙4枚以内)
- ① 作文用紙1枚目の1行目に作品の題名、2行目に学校名、学年、氏名、3行目から本文を書き出して下さい (学校名、学年、氏名が3行になる場合は4行目から本文を書き出して下さい)。
- ② 本人による直筆を原則とし、パソコンなどにより作成した原稿は応募不可とします。
- ただし、視覚・手に障害のある児童・生徒については、その旨を特記事項として応募票の欄外に記述した場合のみ、パソコンなどで作成した原稿の応募を認めます。

【図画部門】

- 1部 小学校1年生～3年生
 - 2部 小学校4年生～6年生
 - 3部 中学校1年生～3年生
- B3判 (364×515ミリ)、もしくは四つ切り (380×540ミリ) の市販用紙を使用。画材は特に制限しません。
- ① スローガンや文字を入れたポスター的なものや台紙に貼ったものは応募できません。

5. 応募規則

- (1) 作文・図画とも課題にそった作品を対象とします。
- (2) 応募は本人の未発表でオリジナルの作品に限ります。また、他のコンテストに応募していない作品に限ります。他人の写真や作品を模写・模倣したものは応募できません。著作権、商標権、肖像権など、他者の権利を侵害する作品は応募できません。盗作や不適切な引用があった場合、審査対象外とします。
- (3) ひとりで1部門に2点以上の応募はできません。2点以上応募の場合は、**2点とも審査対象外となる場合があります。**
- (4) 合作は応募できません。
- (5) 学校で応募の際は、別添の応募者一覧表 (作文部門7ページ、図画部門8ページ) を切り取るか、A4サイズでコピーのうえ、必要事項を明記し、必ず添付してください。
- (6) 作品には、1点ごとに次の事項を記入した応募票 (6ページ) を貼付してください。つける位置について、作文は最後のページの裏面、図画は裏面中央とします。(6ページ参照) ①作品の題名②氏名③学校名・学年・組④学校の所在地 (郵便番号・電話番号) ⑤JA (農業協同組合) 名
- (7) 全応募作品を、表彰式終了後の令和8年2月下旬ごろ、各JAから応募校を通じて応募者に返却いたします。また、全国コンクールの各大臣賞および全国農業協同組合中央会会長賞受賞作品ならびに山形県コンクールの県知事賞および県農業協同組合中央会会長賞受賞作品は、レプリカを作成し、大臣賞受賞作品は永年、県知事賞・全国および県農業協同組合中央会会長賞は1年間、「協同の杜」JA研修所に展示します。なお、作品の著作権は全国農業協同組合中央会および山形県農業協同組合中央会に帰属します。
- (8) 作品を応募することによって、応募作品をJAグループ (後援協賛団体を含む) の広報活動および諸事業活動のために利用することに予め承諾したものとします。その際、作文の部分的な抜き出しや、図画のサイズの変更・トリミングなど一部改変させていただく場合があります。印刷等の都合上、実際の作品と色が多少異なる場合がございます。
- (9) 記入いただいた個人情報、入賞通知・発表や表彰式などのほか、県名、学校名、学年、氏名等の一部情報についてはプレスリリース等のメディアへの発表、JAグループ (後援協賛団体を含む) の広報媒体 (入賞作品集やホームページ等) への露出や作品展示などの広報活動および諸事業活動で公表・使用することがあります。上記および、法令等により開示を求められた場合を除き、承諾なくコンクール関係者以外の第三者に個人情報を提供することはありません。
- (10) 作品を応募することによって、上記の個人情報の使用に承諾したものとします。
- (11) 入賞通知後でも、当該入賞作品がすでに発表済みやオリジナルでない作品と判明した場合、応募規則への違反や、虚偽の報告が判明した場合は受賞を取り消します。

6. 締 切 日

令和7年9月26日(金) ※必着

7. 全国段階との関連

- (1) 県段階で予選審査を行い、各部門各部門ごとに数点を全国コンクールに推

薦します。

- (2) 全国コンクール入賞作品 (優秀賞除く) 以外の作品を対象に、山形県コンクールの審査を行い、県段階の入賞作品を決定します。

8. 審 査 員

【全国コンクール】

◎審査会委員長

尾木 直樹氏 (教育評論家、法政大学名誉教授、臨床教育研究所「虹」所長)

◎作文部門

野口 武悟氏 (専修大学教授、(公社) 全国学校図書館協議会理事長)

竹村 和子氏 ((公社) 全国学校図書館協議会参与)

堀米 薫氏 (児童文学作家、(一社) 日本児童文芸家協会理事)

真鍋 和子氏 (児童文学作家、(一社) 日本児童文学作家協会評議員)

位川 一郎氏 (農政ジャーナリスト、元毎日新聞経済部編集委員)

◎図画部門

岡田 円治氏 (元株式会社NHKアート代表取締役社長、日本美術家連盟連合員)

西巻 茅子氏 (絵本作家)

東良 雅人氏 (文部科学省初等中等教育局視学官、京都市教育委員会総合教育センター指導室長)

郡司 明子氏 (群馬大学教授)

【山形県コンクール】

県教育庁および小・中学校教員 (作文部門5名、図画部門3名)

9. 審査基準

別添審査基準 (作文部門4ページ、図画部門5ページ) による。

10. 賞

【全国コンクール】

- (1) 内閣総理大臣賞 作文・図画部門各1名 —— 計2名
賞状と副賞 (記念盾及びお米券、記念メダル)
- (2) 文部科学大臣賞 各部門各部門ごとに1名 —— 計6名
賞状と副賞 (お米券及び記念メダル)
- (3) 農林水産大臣賞 各部門各部門ごとに1名 —— 計6名
賞状と副賞 (お米券及び記念メダル)
- (4) 全国農業協同組合中央会会長賞 各部門各部門ごとに1名 —— 計6名
賞状と副賞 (お米券及び記念メダル)
- (5) 優 秀 賞 各部門各部門ごとに15名 —— 計90名
賞状と副賞 (記念メダル)
- (6) 学 校 奨 励 賞 内閣総理大臣・文部科学大臣・農林水産大臣各賞
受賞者所属校 —— 計14校
賞状

【山形県コンクール】

- (1) 山形県知事賞 各部門各部門ごとに1名 —— 計6名 賞状と副賞
- (2) 山形県農業協同組合中央会会長賞 各部門各部門ごとに1名 —— 計6名 賞状と副賞
- (3) 優 秀 賞 各部門各部門ごとに5名 —— 計30名 賞状と副賞
- (4) 学 校 奨 励 賞 各部門小学校1校中学校1校 —— 計4校 賞状と副賞

11. 入賞発表・表彰式 (作文・図画部門共通)

【全国コンクール】

- (1) 入賞発表 令和7年12月上旬
- (2) 表 彰 式 令和8年1月10日(出) (入賞校、入賞者宛通知します。)

【山形県コンクール】

- (1) 入賞発表 令和8年1月下旬 (予定)
- (2) 表 彰 式 令和8年2月中旬 (予定) (入賞校、入賞者宛通知します。)

12. 主催・後援・協賛

【主催】

農業協同組合／都道府県農業協同組合中央会／全国農業協同組合中央会

【後援】

文部科学省／農林水産省／子ども家庭庁／全国都道府県教育委員会連合会／全国市町村教育委員会連合会／日本放送協会 (NHK)／全国連合小学校長会／全日本中学校長会／(公社) 全国学校図書館協議会／(公社) 日本PTA全国協議会／(公社) 米穀安定供給確保支援機構

【協賛】

全国農業協同組合連合会／全国共済農業協同組合連合会／農林中央金庫／(一社) 家の光協会／(株) 日本農業新聞／全国厚生農業協同組合連合会／(一社) 全国農協観光協会

13. 受付窓口 (作品送付先)

県内の各JAとします。

作品応募の際は、最寄りのJAへお持ち込みあるいは、ご郵送ください。
※山形県農業協同組合中央会 (JA山形中央会) では受け付けておりませんので、ご注意ください。

14. 問い合わせ先

次にお問い合わせください。

〒990-0042 山形市七日町三丁目1番16号
山形県農業協同組合中央会 (JA山形中央会)
総務部「作文・図画コンクール」係 (担当: 深瀬・大野)
TEL: 023-634-8111 FAX: 023-633-1754
E-mail: soumu@nokyo.jp

